

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、職員共有の理念をホームフロアに掲げ、日々のサービス提供を再確認しながら支援に努めている。	利用者は事業者や管理者や職員と共に暮らす「家族の一員として、”自然に自分らしく生きて頂く”と定めた事業所の運営理念は管理者と職員が共有し、日々のサービスに反映されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の「一員」として日常的に交流している	近隣住人の入居者が多い為、地域の老人会、ボランティアの定期訪問もあり、小学生との交流や地区祭への参加は楽しみごとになっている。又、ホームでの食事は地元産食材を使用することに努め、多くの農家との関係は重要になっている。	利用者の大半が近隣住人であるために、冠婚葬祭への参列はもとより、老人会への参加、ボランティアの訪問等がスケジュール化され、地域との繋がりが途切れない運営がなされています。	
3		○事業所の方をを活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護家族会、市の高齢課や福祉課と連携し見学、相談の受け入れに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日頃よりボランティアや民生委員との交流が多いため、気軽に助言がいただける。定期音楽会や避難訓練等は推進会議メンバーの反省点を取り入れて行われている。	運営推進会議の中で”入居者の食事体験”や”防災訓練の見学”等を行い、参加メンバーから改善課題やその対応策を助言して頂くという極めて効果的な運営がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護、精神障害者の受け入れ等により常に市町村各担当者の訪問があり、サービスの細部に亘り協力関係が得られる。	グループホームでは通常受け入れるケースが少ない”生活保護や精神障害の方”の受け入れやターミナルケアの実施等々により、行政担当部門との協力関係は強く結ばれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠及び拘束については、全職員で弊害の理解に努めている。入居者の生命や身体保護の為、やむを得ず行う場合は各手続き通り、できるだけ早く廃止の取り組みをする。	”玄関の無施錠”や”身体は無拘束”のために ・ドアチャイムで特定利用者の外出を見守ること ・警察や地域住民の協力を得ること ・毎日しっかり散歩して頂くこと 等の予防策を日々行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ゼロを全職員で認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居の際、成年後見制度を利用する方もおり制度の必要性は理解している。又、入居者の状態、状況により権利擁護の活用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前一定のお試し期間を設け、互いに良好な関係が築けるように努めている。入居に際し不安や疑問ができるだけ残らない様、お試期間中入念な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者等の意向を聴く体制を整えることに努めている。又、ホーム玄関周辺に『ご意見箱』の設置、相談窓口などの掲示をしている。	入居者家族が毎月の支払いにホームを訪問された際に、職員が入居者の健康状態や生活状況を報告する中で要望や意見を聞き取るように努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりミーティングを活用し、職員の意見や提案を可能な限り尊重し、ケアやサービスにしている。	ミーティングで出された職員の意見や提案が採用され、日々のサービスに反映されていることが会議録他で見受けられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境を整えることや就業実績及び能力を加味した給与体制を設け、やる気もてる職場作りを進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得、技術向上の機会を設け、講習や研修での学びを大切に実践に活かすように努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護サービス事業者とは地域ケア会議を通じネットワークが構築され、地域内外の同業者とは管理者はじめ職員の交友から事業者交流が始まった。現在はあらゆる情報交換のできる関係がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は入居者に寄り添い、コミュニケーションを図りながら安心と信頼を築くよう努める。同時に本人のペースを大切に、症状や行動を細部に亘り観察、見守りながら意思の確認をしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、親族の状況を確認し本人への要望、意向等できるだけ多くの情報を聴きいれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人及び家族の状況を見極め、必要な支援を助言したり『お試し期間』を利用して、適切なサービス及び支援の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある『共に生きよう源氏庵』を形に、生活全般を協同している。その中で入居者、職員の垣根を除き尊敬、尊重できる関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援することは家族も支援していることと意識し、できるだけホームへ出向いていただき密に連絡及び情報を取り合うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み、思い出に触れることの大切さを家族、親族と共に支援している。地域活動や交流、冠婚葬祭へ職員と参加することもある。	ホーム開催の敬老会に家族を招待したり、地区の老人会に参加させたり、人間関係が途切れないよう積極的に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットの枠を外し、多くの係わりをもてるよう考慮し、入居者間で自然に良好な関係が保つよう支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の一員として、入居者及び家族といつまでもお付き合いのできる関係を保っている。特にこれまでターミナルケアを共にしてきた家族とはつながりが強いと感じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想い、希望の把握をし生活の中で支援している。若年性認知症、精神障害等多種多様な生活を実現するために本人の意向を確認しながら模索している。	若年性認知症や精神障害の方等、様々な利用者を受入れ、一人ひとりの思いや意向の把握に努められているが、“自分らしく生きる”の環境設定に苦慮されているケースも見られます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親族よりこれまでの諸経歴を情報収集し、生活に反映するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身症状、できることの確認、個々の生活リズムを把握している。又、意欲的に暮らす支援を努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の想いや希望を聴き取り、担当者が中心となって全職員の意見やアイデアを組み入れた介護計画をつくっている。	利用者や家族の要望や職員の観察からのアイデア等を取入れ、担当職員が中心になって計画が作られています。	利用者の介護に有効に結びついた意見やアイデアをノウハウ集として作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事(水分補給)、排泄、睡眠を軸に生活状況や心身状態を記録し個別ケア及び支援に活かすよう全職員による情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や意向を尊重し個別ケアや支援を柔軟に対応している。家族交流や宿泊又は災害避難場所等臨機応変に多機能性を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しみごととして老人会、祭典等へ個々の心身状況を見極めながら地域参加を積極的に支援し、活気ある生活を維持している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医へ本人の心身症状及び生活状況等を情報提供し、適切な受診また医療が受けられるよう支援している。ホーム医の往診等全面的な協力により、本人及び家族は安心して暮らしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常ケア又支援の中で入居者の変化や心身症状を介護職員が気軽に相談でき、主治医との医療連携がスムーズになることは看護師の役割は重要となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が入退院の際、適切な医療が受けられるよう看護師及び職員は、主治医や連携医師と情報の共有また医療連携を迅速にできるよう日常的に協同な関係を築くことに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでの看取りケアの経験から、契約時本人及び家族に対し、重度化また終末期の取り組みや方針説明を行っている。今後も本人、家族の希望に添い医療連携を整え、全職員で積極的に対応していきたい。	源氏庵の家族としてお預かりした利用者を、最後まで看することは事業者と職員の共通方針であり、地域の住民や医療機関からも期待されています。同じ志を持つ開業医の協力を得ながら今後も進めていくとのことです。	現在、ターミナルケアの協力を得ている開業医(60代)に問題が生じた際の対策が必要と思います。運営推進会議で行政担当や民生委員を巻き込み抜本策を立案推進されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらゆる緊急事態に対応できるよう職員はマニュアル確認、初期対応を学んでいる。また、事故の発生を未然に防ぐよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害対策はホームの立地条件等不安は薄い。食・飲料、排泄用具、医療品関連の保存をしている。火災発生の際としてホーム全体で初期消火、通報、避難一連の訓練をしている。	消防計画は整備され、防災訓練も計画的に実施されています。また隣接するスーパーや金属工場により救助協力体制にも恵まれた環境にあります。	夜間に発生する災害に対する対応体制とマニュアルの早期作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思、人格を尊重し生活の中で職員は細部に亘り対応している。	利用者を家族の一員として支援しようとする方針は職員に周知され、利用者一人ひとりの対応に配慮されています。	家庭的な雰囲気であるが故に生じる利用者のプライバシーに配慮すべきマニュアルを作成される様期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意思を傾聴し、可能な限り自己決定をする機会をつくり支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の日課を軸に個々の希望を取り入れた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の中で自己流ファッションへの助言や身だしなみ(理容・整髪・毛染め・化粧等)の希望には、個々に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家製野菜や米、地元産を使用することで季節感も味わう工夫をし、調理・配膳・片付け等本人の得意なことを協働でしている。また個々の食事形態を把握し、対応している。	・食事前に調理室から漂う美味しそうな匂い ・季節感のある地元野菜を使った料理 ・本当の夫婦の様に仲良く食べるお二人 ・食後の後片付けを手伝う利用者、等々大家族の和やかな食事が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の心身状態や医療面の栄養摂取・食事量を把握し、必要な食事・水分を摂ることの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の習慣として一日三回の口腔ケアを個々の口腔状態にあわせた支援をしている。これまでの適切な口腔ケアにより、清潔保持はもとより嚥下への効果が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを職員の見守りや支援の際確認し、必要な入居者には尿表を活用しながらできる限り自立した排泄支援を見つけてだしている。	利用者一人ひとりの排泄リズムは職員が把握しており、居間や案内された居室でも排泄物の臭気はなく自立排泄が行われていることが伺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状を確認し、毎日の食事や水分摂取に工夫をしながら、個々にあった適度な体操また散歩を取り入れ予防に努め、必要に応じて医師の診察を受け、薬の服用を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持のため個々に最低週2回の入浴支援を基本とし、楽しみとなるよう希望に応じた入浴の曜日・回数をできるだけ平等になるよう努めている。	入浴を呼び掛けても”入らない”と嫌がる利用者が多いとのことですが、担当職員の誘導で週2回以上の入浴が行われていることはサービス実施記録で伺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身症状にあった生活リズムを把握し、状況に応じ安静を保つ支援をしながら、日常生活の中で安眠を考慮したプログラムを取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医・薬剤師・ホーム看護師の協力により、全職員が服薬の支援を明確にすることができる。また症状の変化を見極めることに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割分担を持ち、個々の力を引出すこと。また、散歩や買い物を利用し地域とのつながりを保ち楽しみごとを作る支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課である散歩を利用し地域への外出支援としている。また、本人や家族の希望に応じ買い物・食事・旅行に必要な情報や準備をし、安心して外出できる支援をしている。	隣に大型スーパーが出来たことで日課になっている散歩中に知り合いの人と挨拶を交わす楽しみも増したとのこと。また家族アンケートでも”よく外出している”の声も多く出されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者に対し、日常の買い物や外出の際に本人が金銭に係るものの支援に努め、本人管理が不可の場合は買出しに誘うことなどで雰囲気を出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に応じ、電話をかける支援をしたり、手紙のやり取りが継続してできるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や職員が心地よく過ごす為、空調や採光に気を配り、季節感を味わえる共用空間を設ける工夫をしている。	利用者が一日の大半を過ごす食堂兼居間は天井扇と自然色照明によって穏やかな空間に調整されています。また各所に利用者の絵や書が飾られ利用者一人ひとりのホームでの暮らしの足跡を大切に扱う姿勢が見受けられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で、食事をはじめ日常生活を本人の希望や想いに添って過ごせるよう、空間配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの暮らしが継続されるよう配慮し、本人や家族の希望を取り入れ寝具・照明器具等々配置する。また災害時避難の妨げとならない工夫をする。	入居時にチェストやベッドを新しく取り揃えられるケースが多いとのことですが、使い慣れたベッドや畳を敷き詰めた部屋等、利用者や家族の意向が随所に取り入れられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長事、身支度、排泄、清掃可能な限り自立した生活を支援できるよう環境整備に努めている。 ホーム内の各所に案内表示を工夫し、わかりやすく対応し、やさしいことを考慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容